

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 05 01	中期総合計画主要施策番号		3-13	担当課	部・課	衛生部 食品・生活衛生課	
事業名		食肉衛生検査所運営事業					内線	2655	
							E-mail	shokusei@pref.nagano.jp	
事業の概要等	事業の目的	・安全な食肉を供給するため、食肉衛生検査所においてと畜検査及び食鳥検査をはじめとする食肉衛生に関する事業を実施する。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)]							
		・食肉の安全性確保に対する消費者のニーズが高まっている。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)]							
		・食肉の産地偽装等の発生により、消費者の不安や不信が高まっている。							
	[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)]								
	・安全な食肉を提供するため、と畜検査及び食鳥検査を的確かつ迅速に実施する必要がある。								
	事業内容	・県下4カ所の食肉衛生検査所において、と畜検査及び食鳥検査を実施する。 ・全ての牛を対象に牛海綿状脳症(BSE)検査、全てのめん羊を対象に伝達性海綿状脳症(TSE)検査を実施する。							
	実施期間	S 25 ~	根拠法令等 と畜場法、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	・県内のと畜場、食鳥処理場で処理された獣畜の疾病の排除と食肉の安全性の確保を図る。 ・牛、めん羊、山羊のBSE及びTSEの検査を行い、感染獣畜の排除を図る。		全ての獣畜のと畜検査を行い、併せてBSE、TSEの検査を全頭実施する。			・県内で処理されたすべての獣畜の疾病の排除が確保された。 ・県内で処理されたすべての牛のBSE検査、すべてのめん羊・山羊を対象としたTSE検査を実施し、すべて陰性であった。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回った d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	98,629	95,847	97,060	国庫・県単	国庫・県単	
	決 算 額 (B)		千円	94,057	88,976		実施方法	直接	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	23,717	21,845	33,310	歳出節別内訳等	・賃 金:29,431 ・需用費:36,122	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	32	32	32	(単位:千円)		
	概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	322,537	317,744	325,828			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	と畜検査頭数		頭	189,903	184,056	180,000	県内で処理された食肉に対する県民の安全・安心が担保された。		
	食鳥検査羽数		頭	4,419,148	4,450,252	4,100,000			
	BSE検査頭数		頭	13,086	12,224	13,400			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	・ 検査を遂行することで、生産者・消費者双方の利益になる。 ・ と畜場法等に基づく検査は、県で実施しなければならない。 ・ BSE検査は、1回に90頭分を検査でき効率的である。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	課題の総括		県内で処理される獣畜の検査をおこなうことにより、食肉の安全性を確保することが必要であり、引き続き確実に検査を実施する。						